

令和 6（2024）年度事業報告

令和 6（2024）年 4 月 1 日から令和 7（2025）年 3 月 31 日までの事業概要は次のとおりである。

1. 法人の基本情報について

〔1〕会 員

令和 6（2024）年度末の会員数は次のとおりである。

区 分	会 員 数	備 考
個人正会員	1542 名	うち海外在住外国人正会員 8 名
特別正会員	58 名	
団体正会員（公益）	64 口	
団体正会員	71 口	
学 生 会 員	507 名	
名 誉 会 員	13 名	
合 計	2255 名	

〔2〕運営に関する会議を次のとおり開催した。

(1) 第 44 回通常総会

- 1) 日 時 令和 6（2024）年 6 月 7 日（金） 13 時 00 分～13 時 30 分
- 2) 場 所 タワーホール船堀（東京都江戸川区）
- 3) 出席者 938 名
- 4) 議 題
 - ア. 令和 5（2023）年度決算（案）について
報告 令和 5（2023）年度事業報告

(2) 第 139 回理事会

- 1) 日 時 令和 6（2024）年 5 月 22 日（金） 16 時 00 分～17 時 35 分
- 2) 場 所 学会事務局（東京都江東区）
- 3) 出席者 池会長他理事 23 名、監事 2 名、運営幹事 9 名、他に事務局
- 4) 内 容
 - ア. 各種表彰の選考
 - イ. 研究委員会の前年度活動報告、今年度継続申請および予算の承認
 - ウ. 第 44 回通常総会の開催、招集、議決権行使および委任の方法の承認
 - エ. 議案および議事資料の確認、令和 5（2023）年度決算（案）および事業報告の承認
 - オ. 規程改定の承認
 - カ. 入退会者等の承認および特別正会員への移行
 - キ. 代表理事、業務執行理事の職務執行の報告

ク. その他

(3) 第140回理事会

- 1) 日 時 令和6(2024)年9月6日(金)16時00分～16時50分
- 2) 場 所 学会事務局(東京都江東区)
- 3) 出席者 池会長他理事20名、監事3名、他に事務局
- 4) 内 容
 - ア. 入退会者等の承認
 - イ. 新たな研究委員会の設置について
 - ウ. 代表理事、業務執行理事の職務執行の報告
 - エ. その他

(4) 第141回理事会

- 1) 日 時 令和7(2025)年3月18日(木)12時31分～13時33分
- 2) 場 所 北海道大学(札幌市)
- 3) 出席者 池会長他理事20名、監事3名、運営幹事9名、他に事務局
- 4) 内 容
 - ア. 各種表彰の選考
 - イ. 令和7(2025)年度事業計画案と予算案の承認
 - ウ. いわゆる公益法人認定法の改定への対応について
 - エ. 規程類改定の承認
 - オ. 入退会者および特別正会員への移行の承認
 - カ. 代表理事、業務執行理事の職務執行の報告
 - キ. その他

〔3〕運営方法および財政改善に関する検討

健全な運営のための業務改革と財政改善を積極的に推進した。

2. 事業活動等について

〔1〕公益目的事業

公1 水環境分野における学術文化の発展及び水環境の保全を図るための年会・シンポジウム・セミナー等の開催

公1-1. 年会

年会を次のとおり開催した。

(1) 第59回日本水環境学会年会

- 1) 開催日 令和7(2025)年3月17日(月)～19日(水)
- 2) 場 所 北海道大学(札幌市)
- 3) 参加者 1588名
- 4) 一般発表: 発表件数 831件(口頭470件+ポスター361件)の他、特別講演会、企業展示、水環境ビジネスガイダンス、会員企業・研究機関等就職説明会、各賞の発表と表彰が行われた。

公1-2. シンポジウム

シンポジウムを次のとおり開催した。

(1) 第27回日本水環境学会シンポジウム

- 1) 開催日 令和6(2024)年9月11日(水)～13日(金) (13日(金)はテクニカルツアー)
- 2) 場 所 岩手大学上田キャンパス(岩手県盛岡市)
- 3) 参加者 418名
- 4) 18の研究委員会が企画した17のセッションの他、特別講演会、および各賞の発表と表彰が行われ、東北支部共催としてテクニカルツアーが実施された。

公1-3. セミナー

セミナーを次のとおり開催した。

- (1) 第33回市民セミナー
 - 1) 開催日 令和6(2024)年8月22日(火)
 - 2) 場 所 オンライン開催
 - 3) 参加者 62名
 - 4) テーマ 水インフラの歴史と地域の水環境
- (2) 第70回日本水環境学会セミナー
 - 1) 開催日 令和7(2025)年2月18日(火)
 - 2) 場 所 オンライン開催
 - 3) 参加者 70名
 - 4) テーマ 今、ネイチャーポジティブを考える

公1-4. 産官学協力

第37回見学会を次のとおり実施した。

- 1) 開催日 令和6(2024)年11月27日(水)
- 2) 場 所 ニッカウキスキー株式会社 仙台工場 宮城峡蒸留所(宮城県仙台市)
- 3) 参加者 20名

水環境懇話会を次のとおり開催した。

- (1) 第58回水環境懇話会
 - 1) 開催日 令和6(2024)年6月12日(水)
 - 2) 場 所 月島ホールディングス本社アメニティホールおよびweb会議システムの併用
 - 3) 参加者 54名
 - 4) テーマ リン回収と汚泥処理の同時達成を目的としたハイブリッド型電解晶析法の開発
- (2) 第59回水環境懇話会
 - 1) 開催日 令和6(2024)年11月7日(木)
 - 2) 場 所 水ing株式会社 Conference Roomおよびweb会議システムの併用
 - 3) 参加者 45名
 - 4) テーマ ルワンダで水道事業の発展を考える。

公1-5. 国際学会

国際会議を次のとおり開催した。

Water and Environment Technology Conference 2024 (WET2024)を開催した。(一部は、水ing株式会社からの出捐事業として実施した。)

- 1) 開催日 令和6(2024)年7月20日(土)～21日(日)
- 2) 場 所 岡山大学(岡山県岡山市)
- 3) 参加者 223名
- 4) 発表数 170件

公１－６．支部活動

7支部がそれぞれ総会、講演会、研究発表会、セミナー、表彰等を実施した。

公１－７．その他

- (1) 関連学協会の講演会等を協賛・後援した。
- (2) 環境工学連合講演会を開催する日本学術会議環境学委員会環境科学・環境工学分科会環境工学連合小委員会に継続して参画した。
- (3) WET2024などの機会を捉えて、国際連携会員の拡大に努めた。
- (4) オンライン・対面型融合活動の推進（リモート化促進）について検討を継続した。
- (5) 学会が掲げる学術の中長期計画（将来ビジョン）の実施促進に係る活動について検討し、セミナー等を実施した。

公２ 水環境分野における学術文化の発展及び水環境の保全を図るための機関誌等の発行

公２－１．機関誌

- (1) 機関誌「水環境学会誌」を毎月発行し、会員に配布した。
- (2) 機関誌「水環境学会誌」原著論文編およびバックナンバーを科学技術振興機構（JST）が運営するJ-STAGE上で公開した。

公２－２．JWET

機関誌“Journal of Water and Environment Technology”を発行し、科学技術振興機構（JST）が運営するJ-STAGE上で公開した。

公２－３．水生生物資料頒布

水生生物調査法に関する環境省水・大気環境局／国土交通省水管理・国土保全局編「川の生きものを調べよう」冊子および下敷を販売した。

公２－４．電子媒体による学術的資産アーカイブ

水環境学会誌の特集企画記事等の学術的資産アーカイブの活用について検討した。

公２－５．その他

- (1) 年会等講演資料集を販売した。
- (2) 「水環境学会誌」およびその前身の「水質汚濁研究」のVol.1～Vol.30のPDF版を収めたDVD-ROMを販売した。

公３ 水環境分野における学術文化の発展及び水環境の保全を図るための助成・表彰等の研究支援

公３－１．会員助成

水環境国際招聘賞および水環境国際活動賞

水環境国際招聘賞（いであ招聘賞）および水環境国際活動賞（いであ活動賞）を次の各氏に授賞した。

- (1) 水環境国際招聘賞（JSWE-IDEA Water Environment International Exchange Award）
Changsoo Lee (Ulsan National Institute of Science and Technology, Republic of Korea)
Chen Xiaochen (Fuzhou University, China)
Sanghyun Jeong (Pusan National University, Republic of Korea)
Zheng-Yang Huo (Renmin University of China, China)
（いであ株式会社からの出捐顕彰事業として上記の４名の国際連携会員に対し「水環境国際招聘賞」を授与し、第59回年会で研究発表を行う来日費用等を助成し表彰した。）

(2) 水環境国際活動賞 (JSWE-IDEA Water Environment International Activity Award)

^{とりい}鳥居 ^{しょうたろう}将太郎 (東京大学大学院)

欧州式塩素低減型水道の将来的導入を見据えた国際ネットワークの構築

(いであ株式会社からの出捐顕彰事業として上記の1名に対し「水環境国際活動賞」を授与し、活動費用の一部を助成することを決定した。)

公3-2. 一般表彰

水環境の保全・創造に関する社会・文化活動が顕著である者、及び地域の水環境保全・創出に貢献した小・中・高校生のグループなどを年会において表彰した。

(1) 水環境文化賞

1) 水環境文化賞

受賞者 ^{やすまつ}安松 ^{さだお}貞夫 (京都府京都市)

対象活動 琴引浜における高等学校生徒や地元住民と協働した漂着物調査と普及・啓発活動

2) 水環境文化賞「児童・生徒の部」(みじん子賞)

受賞者 北海道富良野高等学校(北海道富良野市)・北海道富川高等学校(北海道沙流郡)

対象活動 地域自律管理型水道の持続性向上を通じた水環境保全活動

(2) 7支部がそれぞれ表彰を実施した。

公3-3. 会員表彰

学会の発展に貢献あるいは、水環境に係る分野において特に優れた功績を認められる個人、あるいは優秀な研究論文を発表した個人等、内規で定められた表彰内容にふさわしい会員を、総会、年会及びシンポジウムの開催時に表彰した。(敬称略・50音順)

(1) 学会賞

該当なし

(2) 学術賞

受賞者 ^{たかねし}高梨 ^{ひろかず}啓和 (鹿児島大学大学院理工学研究科・准教授)

対象研究 精密質量分析を活用した水環境中の未知汚染物質の構造推定

受賞者 ^{やまぐち}山口 ^{たかし}隆司 (長岡技術科学大学技学研究院・教授)

対象研究 硫黄を媒介する微生物代謝プロセスを活用した高効率な有機物分解と脱窒に関する研究

(3) 論文賞

受賞者 ^{やすい}安井 ^{ひでなり}英斉 (北九州市立大学国際環境工学部・教授)

主要対象論文 Methanogens' Death Induced by Sulphide and its Kinetic Modelling

掲載誌 *Journal of Water and Environment Technology*, Vol.22, No.5, 220-231 (2024)

(4) 論文奨励賞(廣瀬賞)

受賞者 ^{おがた}尾形 ^{ゆか}有香 (国立環境研究所・主任研究員)

対象論文 Development of a floating constructed wetland for landfill leachate treatment and its potential to remove recalcitrant organic matter

掲載誌 *Water Research*, Vol.263, 122154 (2024)

受賞者 ^{なかざわ}中沢 ^{よしふみ}楨文 (ノースカロライナ州立大学・博士研究員)

対象論文 Maximum desorption of perfluoroalkyl substances adsorbed on granular activated carbon used in full-scale drinking water treatment plants

- 掲 載 誌 *Water Research*, Vol.254, 121396 (2024)
- 受 賞 者 はた あきひこ 端 昭彦 (富山県立大学工学部 環境・社会基盤工学科・准教授)
- 対象論文 利用状況の異なる水浴プールにおける健康関連微生物の存在実態
- 掲 載 誌 水環境学会誌, Vol.46, No.5, 113-122 (2023)
- (5) 技 術 賞
- 受 賞 者 さと う ゆういち 佐藤 祐一 (滋賀県琵琶湖環境科学研究センター・専門研究員)
- うえはら ひろし 上原 浩 (パシフィックコンサルタンツ株式会社・技術課長)
- ながれ ひであき 永禮 英明 (岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域・教授)
- こまつ えいじ 小松 英司 (株式会社環境創生科学研究所・代表取締役所長)
- 対象技術 陸域―湖内流動―湖内生態系を結合した湖沼流域水物質循環モデルの構築と政策活用
- (6) 技術奨励賞
該当者なし
- (7) 特別功労賞
該当者なし
- (8) 支部活動優良賞
受賞支部 中国・四国支部
対象活動 水環境フォーラム in 岡山
- (9) 博士研究奨励賞 (オルガノ賞) (◎：最優秀賞)
- たかい ゆうき 高井 優生 (九州大学大学院)
- むらた ゆういちろう 村田 雄一郎 (東京都立大学大学院)
- ◎ よねだ いちろ 米田 一路 (岩手大学大学院)
- (オルガノ株式会社からの出捐顕彰事業として、第 27 回シンポジウムで発表した上記の 3 名に「博士研究奨励賞」を授与し、うち 1 名に最優秀賞を授与した。)
- (10) 年会優秀発表賞 (クリタ賞) および年会優秀発表賞 (クリタ賞) 受賞者国際会議発表助成
- 1) 年会優秀発表賞 (クリタ賞)
- あきかわ たかし 浅川 高志 (北海道大学大学院)
- おざき かれん 小崎 華怜 (北海道大学大学院)
- か に たいち 可児 太一 (金沢大学大学院)
- こじま つばさ 小島 翼 (大阪大学大学院)
- しばさき えりこ 芝崎 絵理子 (東京大学大学院)
- たかい まほ 高井 麻帆 (北海道大学大学院)
- つづき なおひと 都築 直仁 (東北大学大学院)
- に った てつぺい 新田 哲平 (東京農工大学大学院)
- ひらた そうたろう 平田 蒼太郎 (北海道大学大学院)
- ふくい けんき 福井 健暉 (北海道大学大学院)
- みさわ かほ 三澤 香穂 (北里大学大学院)
- みずおち ののか 水落 望乃香 (北海道大学大学院)
- みづがuchi にき 溝渕 和 (東北大学大学院)
- よこやま りつ 横山 律 (山形大学大学院)

よねざわ あきほ
米澤 璃穂 (京都大学大学院)

り てい
李 婷 (京都大学大学院)

わたなべ かんき
渡部 寛生 (東北大学大学院)

(公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団からの出捐顕彰事業として、上記の 17 名に「年会優秀発表賞」を授与した。)

2) 年会優秀発表賞 (クリタ賞) 受賞者国際会議発表助成

きの かずと
佐野 航士 (北海道大学大学院)

(公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団からの出捐顕彰事業として、上記の 1 名に国際会議発表の旅費等を助成した。)

(11) 年会学生ポスター発表賞 (ライオン賞) (◎: 最優秀賞)

いけだ みお
池田 漣 (北海道大学)

うぬき まほ
宇貫 真布 (北海道大学)

うらべ あんじゅ
占部 杏珠 (静岡県立大学)

きたじま かいと
北島 魁十 (大阪大学)

◎くまだ りお
熊田 梨音 (東京大学)

ごう よしき
郷 義基 (北海道大学)

さとう まい
佐藤 麻衣 (山梨大学)

したみち いさな
下道 勇波 (東京農工大学)

しみず あつと
清水 敦翔 (東京農工大学)

たかやま ちひろ
高山 知大 (秋田県立大学)

たけうち ひろみ
竹内 広海 (東京大学)

ともい かんた
友井 幹太 (京都大学)

なかがわ なおき
中川 直樹 (北海道大学)

ながせ かずま
長瀬 和真 (東北大学)

のぐち すなお
野口 素 (兵庫県立大学)

ふくい みつき
福井 光貴 (愛媛大学)

みくに ひなた
三国 向日葵 (静岡県立大学)

むらまつ あゆか
村松 歩佳 (山梨大学)

もりもと みさき
森本 実咲 (東洋大学)

やの りょうすけ
矢野 涼介 (岐阜大学)

やました はやと
山下 颯斗 (北海道大学)

(ライオン株式会社からの出捐顕彰事業として、上記の 21 名に「年会学生ポスター発表賞」を授与し、うち 1 名に最優秀賞を授与した。)

(12) 年間優秀論文賞 (メタウォーター賞)

対象論文 東京都区部における下水道の一般水質と集水域特性の対応関係

受賞者 みやわき やまと はたの ゆうた よしむら ちひろ
宮脇 大和、波多野 雄大、吉村 千洋 (東京工業大学)

掲載誌 水環境学会誌, Vol.46, No.2, 35-45 (2023)

(メタウォーター株式会社からの出捐顕彰事業として、上記の論文の著者に 2023 年「年間優秀論文賞」を授与し、第 27 回シンポジウムでの受賞者講演会の発表者に旅費等を助成した。)

(13) WET 優秀論文賞 (水 ing 論文賞) および WET 優秀発表賞 (水 ing 発表賞)

1) WET Excellent Paper Award (WET 優秀論文賞 (水 ing 論文賞))

対象論文 Evaluation of the Degradation Performance of Pharmaceuticals in Environmental Water by Multi-wavelength UV Irradiation and the Estimation of their Degradation Pathways

受賞者 Ayumi Hashiguchi^{1,2}、Hitoshi Kaneko^{1,3}、Shogo Taniguchi⁴、Yuto Tada⁵、Klon D.C. Hinneh⁶、Shinya Echigo⁵、Hideaki Nagare²
(1 Shimane University、2 Okayama University、3 Sanki Engineering Co., Ltd.、4 Osaka Sangyo University、5 Graduate School of Global Environmental Studies, Kyoto University、6 Graduate School of Engineering, Kyoto University)

対象論文 Insight into the Mechanism of Biogas Upgrading with Hydrogen Addition in Thermophilic Anaerobic Digestion of Sewage Sludge

受賞者 Ching Yi Kwang¹、Taira Hidaka¹、Yohei Nomura^{1,2}、Taku Fujiwara^{1,2}、Shinya Akimoto³、Jun Tsubota³
(1 Graduate School of Engineering, Kyoto University、2 Graduate School of Global Environmental Studies, Kyoto University、3 Osaka Gas Co., Ltd.)

2) WET Excellent Presentation Award (WET 優秀発表賞 (水 ing 発表賞))

Adelia Anju Asmara	(Kyoto University)
Pranshu BHATIA	(Soka University)
Katayoun Dadeh AMIRFARD	(Tohoku University)
Rika FUKATSU	(Ochanomizu University)
Rendilicha Guyo HALAKE	(Okayama University)
Thilini Maheshika HERATH	(Tokyo Institute of Technology)
Chenrun JIANG	(The University of Tokyo)
Takayuki KAKUDA	(Chuo University)
Uthpala KAUSHALYA	(Hokkaido University)
Tsubasa KOJIMA	(Osaka University)
Patthranit KUNLASUBPREEDEE	(The University of Tokyo)
Dan Joseph LOGRONIO	(Ehime University)
Minh Ngoc PHAM	(Kyoto University)
Aya MIYAZAKI	(Hiroshima University)
Kizuku MORI	(Gifu University)
Taiyo NABATA	(Toho University)
Hana OTSUKA	(Osaka University)
Chinh Thi Kieu PHAM	(Ritsumeikan University)
Marcus Joseph Angeles SANCHEZ	(Tohoku University)
Benyapa SAWANGJANG	(The University of Tokyo)
Tong SHEN	(Waseda University)
Nilupuli SINGAPPULI	(The University of Tokyo)
Riho TAKAHASHI	(Yamaguchi University)
Yu TANG	(Kyoto University)
Duyen Phuc-Hanh TRAN	(Chung Yuan Christian University)

Yunxin ZHU

(Kyoto University of Advanced Science)

Nurhasliza ZOLKEFLI

(Kyushu Institute of Technology)

(水 ing 株式会社からの出捐顕彰事業として、WET2024 の参加者のうち、上記 27 名の発表者に WET Excellent Presentation Award を授与した。WET2024 での発表に対する WET Excellent Paper Award は WET2025 で授与される。)

(14) 7 支部がそれぞれ表彰を実施した。

公 3－4. IWA 支援・協力

国際活動への助成、IWA 活動への協力などを行った。

(1) 京都会議記念基金を基にした国際会議参加援助として、2024 年 8 月 11 日～15 日に、トロント (カナダ) で The IWA World Water Congress & Exhibition 2024 参加のための渡航費用等を下記 3 名に対して助成した。

てい せい
丁 青

(中央大学研究開発機構)

なかざわ よしふみ
中沢 禎文

(North Carolina State University)

まつなが こうじ
松永 光司

(埼玉大学)

(2) IWA およびその日本国内委員会の活動に参加し、IWA 活動を支援・推進した。

公 4 水環境分野における学術文化の発展及び水環境の保全を図るための研究調査

公 4－1. 受託研究調査の実施

対象研究調査なし。

公 4－2. 研究委員会活動

20 研究委員会 (嫌気性微生物処理、MS 技術、生物膜法、身近な生活環境、微生物生態と水環境工学、バイオアッセイによる安全性評価、土壌地下水汚染、水中の健康関連微生物、湿地・沿岸域、流域物質動態とノンポイントソース、膜を利用した水処理技術、紫外線を利用した水処理技術、産業排水の処理・回収技術、電気化学的技術、熱帯・亜熱帯地域水環境、農産業に関わる水・バイオマス循環技術、汽水域、地域水環境行政、マイクロプラスチック、PFAS 処理技術) が、シンポジウムでセッションを企画するなどそれぞれ活動を行った。

公 4－3. 災害調査

日本学術会議と連携して活動する防災減災・災害復興に関する学会ネットワーク「防災学術連携体」に継続して参画した。

〔2〕収益事業

収 1. 事務室賃貸

対象収益なし。